

いぐさの新品種候補系統「有明3号」

農業研究センター い業研究所 育種部

担当者：中澤 芳則・飯牟禮和彦

研究のねらい

中国を中心とする安価な外国産いぐさやい製品の輸入の急増に伴い、国内産品の需要が停滞し、いぐさ作付面積が減少するなどいぐさ生産地は極めて大きな影響を受けている。

そこで、高品質な畳表を製織できる特性を有する品種を開発し、品質による格差をつけることで、国内のいぐさ生産の振興をはかる。

研究の成果

- 1 「有明3号」は農水省の委託試験（指定試験）により熊本県が育成した系統である（農水省の命名登録審査を申請中）。
- 2 「有明3号」は、宮城県下増田村の在来種「下増田在来」と高品質品種「せとなみ」の人工交配に由来する。
- 3 生茎の色は「岡山3号」より淡く“やや淡緑”で、草型は“直立型”である。
- 4 花序の着生は「岡山3号」よりも極めて少なく“極少”である。
- 5 茎の太さは「岡山3号」「せとなみ」よりも細く“極細”である。
- 6 元白及び先枯は「岡山3号」よりも少なく、変色茎の発生も「岡山3号」より少ない。
- 7 高品質な原草が生産できるため高品質畳表が製織され、輸入品との品質格差を明確にできる。

普及上の留意点

- 1 宇城・八代地域の普通刈栽培に適するが、高品質ないぐさを生産するため十分に充実させて収穫する。
- 2 茎が細いため畳表1枚当たりの製織時間は長くなる。
- 3 植付後の生育が弱く、枯死株が発生しやすいので、株分けは丁寧に行い、苗の茎数を多くする。
- 4 直立型で株が比較的小さい傾向があるので、疎植にしない。
- 5 委託試験であるため、農水省の命名登録審査が終了し、公示された後に熊本県の奨励品種として採用が予定されており、普及に移される。

表1 特性一覧表

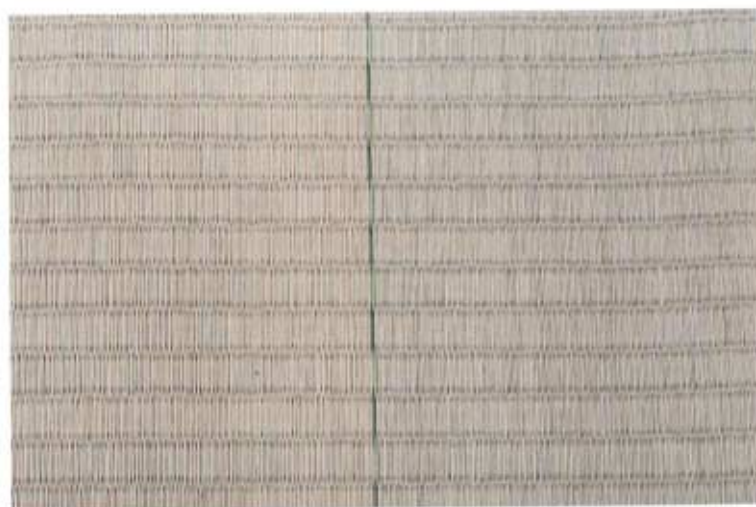
系統名	有明3号	交配組合せ	下増田在来 / せとなみ		
特性	長所	1	茎が「極細」でえん荳面のきれいな畳表が製織できる。		
		2	花序の着生および変色茎がほとんど認められない。		
		3	元白、先枯が少ない。		
	短所	1	本田植付後の枯死株がやや発生しやすい。		
現地試験市町村名		下益城郡小川町		八代郡鏡町(宝出)	
品種・系統名		有明3号	岡山3号 (標準)	有明3号	岡山3号 (標準)
形質					
草型		直立型	中間型	直立型	中間型
茎長 (cm)		149	146	142	145
茎の太さ (mm)		1.12	1.25	1.23	1.35
生茎の色		やや淡緑	緑	やや淡緑	緑
105cm以上茎数 (本/株)		132	97	85	69
120cm以上茎数 (本/株)		92	63	44	37
105cm以上茎重 (kg/a)		78.2	86.5	83.2	76.0
120cm以上茎重 (kg/a)		44.6	56.8	48.1	45.3
花序の着生率 (%)		0.0	1.1	0.2	2.1
先枯長 (cm)		1.8	2.0	1.1	1.5
畳製織長 (cm/300本)		9.5	11.6	11.2	13.0
表元白*		3.4	3.0	3.4	3.0
先枯*		3.4	3.0	3.4	3.0
変色茎*		3.8	3.0	4.1	3.0
総合評価**		6.7	5.0	6.7	5.0

畳表の評価:

茎長が(105 - 120cm)のいぐさで製織した畳表で調査。

* : 5(良) ~ (標準) ~ 1(不良)の5段階で評価。

** : 10(良) ~ (標準) ~ 1(不良)の10段階で評価。



岡山3号

有明3号

写真1 製織した畳表の写真